

## 会議結果報告

- 1 会議の名称  
第1回光市中学校部活動改革推進協議会文化芸術活動推進部会
- 2 開催日時  
令和5年11月21日（火）10時00分～11時26分
- 3 開催場所  
教育委員会2階会議室
- 4 出席人数  
委員7名、事務局5名、傍聴者なし、報道関係者1社
- 5 公開・一部非公開の別  
公開
- 6 会議の議事録（要旨）
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 議事
    - ア 所管説明  
配布資料に沿って説明

### 【委員】

学校部活動がいつ終わるのか。

### 【事務局】

今後の部活動改革推進協議会等で協議をして、令和6年度に入学する子どもたちに説明できるよう、検討していきたい。

### 【委員】

学校区の中で地域移行を進めていくのか、市全体で活動拠点が1つになるのか。地域で自転車や徒歩で行けるとところに活動場所があればよいが、遠方であれば送り迎えが難しくなる可能性がある。また、受け入れ可能人数もどうなってるのか気になっている。

### 【事務局】

この地域移行は学校区を解いた形で考えている。また、地域移行を進める上で移動手段は大きな課題であると認識している。地域クラブ活動団体がどこを拠点に活動されるかにもよるが、種目によっては市内で1つの活動ということも想定される。この場合はどうしても保護者の方に送迎をお願いするケースも出てくると思われる。

### 【委員】

「休日の活動から」ということだが、私たちは休日は活動していない。それでも平日にやっていくのか。また、平日は19時からの活動であるが、そこに中学生が参加するのか。

### 【事務局】

本市の基本的な考え方の中で、平日は休日の地域移行の進捗状況によって活動を進

めることとしているが、平日も含めて活動できるような体制の整備も検討したい。活動時間については、各団体へのヒアリングの中で、平日は特に夜間になることを想定している。

**【委員】**

管弦楽の受け皿については情報があるか。

**【事務局】**

今のところ情報はないが、管弦楽を指導したいとする教員が地域の一員として指導することも想定している。ただし、教員は広域での人事異動があるため、そのことも考慮しながら検討する必要がある。

イ 協議事項

(ア) 地域クラブ活動団体の登録要件（素案）について

→事務局案について承認され、代表者会議に報告することとした。

**【委員】**

代表者等が光文化協会に加盟する団体に所属しており、市が示す指導者研修会等を受講しているについて、指導者は高齢の方も想定される。例えば、研修内容を録画したものを、市内の会場等で受けるなど、簡易な方法は取れないか。

**【事務局】**

中学生への必要最低限な指導のあり方や、団体の運営上必要なコンプライアンスに関わることなどを、長時間に及ばない研修として市内で実施すること検討している。

**【委員】**

指導者研修会を受けるのは代表者だけか。

**【事務局】**

代表者が研修を受けていただき、団体内の複数の指導者へその内容を伝えていただきたい。

**【委員】**

「国の示すガイドラインに準じた活動を行っていること」とは、文化芸術活動ではどのようなことか。

**【事務局】**

国のガイドラインとは主に、練習日、練習時間のことで、週に平日は4日、休日は土日がいずれか1日以内と示している。他には、適切な指導の実施や、適切な休養日の設定等がある。

(イ) 試行運用に向けた取組みについて

→事務局案について承認され、代表者会議に報告することとした。

**【委員】**

市内中学校への情報提供はいつ誰が行うか。

**【事務局】**

今後において、随時、団体が登録することも想定されるため、最新の情報を子どもたちが確認できる方法として、インターネット等を利用して、常に情報を更新し閲覧できるように検討している。

**【委員】**

受け入れ可能人数を超えて申込みがあった場合の選考方法は。

**【事務局】**

平等な選考方法として、運営団体に抽選を行うことについて検討する必要がある。

**【委員】**

吹奏楽に関しては、団員は個人の楽器を使用している。今後、体験会など中学生が参加するとなると楽器を準備しないといけないが、その辺りはどのようにお考えか。

**【事務局】**

学校で使用している楽器を使わせていただけるのが1番良いが、今後、学校と調整する必要がある。

**【委員】**

吹奏楽や管弦楽など音楽関係は莫大な経費がかかるため、これから検討を進める必要がある。また、子どもたちが週に2、3回程度の練習で音楽のレベルが上がるとは考えにくい。子どもたちが相当練習をしなければレベルが上がらないし、それ相応な体制がないと成り立たないだろうというのが推察できる。

**【委員】**

吹奏楽の楽器の問題については、国の補助金等が確定していない中で課題は多い。レベルについては、中学生を一流の演奏者にすることよりも、吹奏楽団としては裾野が広がるなど良い面もあるため、その辺りで折り合いをつけながら、吹奏楽がやりたい子どもたちの要望に応えることが重要である。

**【事務局】**

楽器や予算等に関する問題は多い。一方で、学校部活動は基本的には1つしか入れないが、いくつか掛け持ちをすることができ、広く様々な経験できるという地域移行の良さもある。こうした良さを出せる活動になることが必要である。

**【委員】**

今まで前例のない取組を進めているので、できない理由を挙げると山ほどある。できない理由をなんとか知恵を出し合いながら、子どものために動いていく部会にする必要があると考えている。

(4) 閉会